

天敵利用技術による野菜の安定生産支援

要約

【イチゴ天敵製剤の導入】

各部会での講習会による情報提供、新規導入生産者への定期的な巡回指導により、天敵導入施設でのハダニ被害は低く抑えられ、イチゴの安定生産につながっている。

【ナス土着天敵利用促進】

川東秋なす出荷組合に対し技術紹介をしたところ、多くの生産者が取り組みを始め、ミナミキイロアザミウマの被害も許容レベル範囲に抑えられ、生産安定につながった。

現状(背景)と課題

イチゴとナス生産現場では、薬剤抵抗性が高度に発達した害虫による被害が大きな問題。化学農薬に頼らない防除技術の導入が必要

天敵製剤導入イチゴ生産者割合 H29：27% (管内生産者 93 戸)
土着天敵利用ナス生産者 H29：4 戸 (重点指導対象 15 戸)

目標

イチゴ天敵製剤導入 30%
ナス土着天敵利用 7 戸

活動内容

【イチゴ天敵製剤の導入】

- 天敵製剤の使用方法、使用時の注意点を指導する講習会を実施し、効果的な利用方法を示した。
- 天敵製剤利用者のうち 1 年目と 2 年目の生産者(16 名)について、育苗後半から 2 回/月程度の頻度で巡回を行った。特にルーペで天敵を確認してもらうなど生産者の不安解消にも努めた。
- 生産者毎に薬剤感受性検定を行い、生産者毎にハダニ防除体系を提案した。
- 天敵製剤の放飼タイミングがポイントとなるため、天敵放飼の際には実演を交え注意点を指導した。

【ナス土着天敵利用促進】

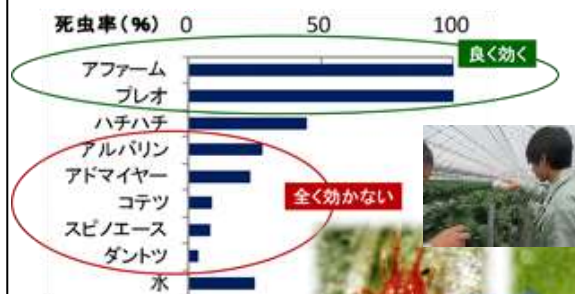
- 土着天敵利用のための 2 回の講習会と 5 月から 9 月まで 2 回/月程度の頻度で巡回指導を実施した。
- ミナミキイロアザミウマによる果実被害率、農薬散布実態の調査結果をもとに総合的害虫防除検討会を開催した。

成果

イチゴ天敵製剤導入 42%
ナス土着天敵利用 10 名

取り組みに成功した生産者は「天敵は効果がある」を実感できた。更に、健全な作物を育てる肥培管理や水管理、温度管理などの栽培全般で改善が図られ、生産性向上につながったことによると考えられる。

害虫の薬剤抵抗性の実態



中部農林振興事務所 農林普及課
担当：農産物ブランド推進係



ナスの安定生産



天敵利用講習会

普及活動のポイント

新技術（天敵利用技術）の普及にあたっては生産者に以下のことを理解させた。

- 天敵製剤、土着天敵は生き物 ⇒特徴や生態の熟知
- 天敵 vs 害虫の共存環境 ⇒それぞれの生存量の確認と正しい判断
- 天敵を温存できる化学農薬の使用法 ⇒化学農薬の天敵に対する影響など
- 天敵製剤を使用する場合、正しい使い方 ⇒放飼時期や放飼量など

対象の変化

- 化学農薬使用回数を低減でき、ほとんどの生産者が次年度以降も継続する予定。
- 次年度新たに取り組む意思を示す生産者も出てきている。

対象者からのコメント

- イチゴでは農薬散布回数を減らすことにより、安心・安全なイチゴを消費者に提供できる。アザミウマ等の害虫に対する効率的な防除方法についても指導願いたい。
- ナスでは害虫と天敵を共存させながら管理を行う必要があり、栽培時期によって使う剤の選択に苦労した。しかし、次年度以降も土着天敵利用に取り組みたいという意見が多かった

これからの活動ビジョン

- 取り組み初めて3年目には、天敵利用について自ら正しく判断できる生産者を育成する。特に土着天敵利用技術は産地全体の取り組みとしての定着を目指す。
- JA営農指導員等関係機関指導者の技術レベルアップにより更なる技術の普及を図る。

活動体制

